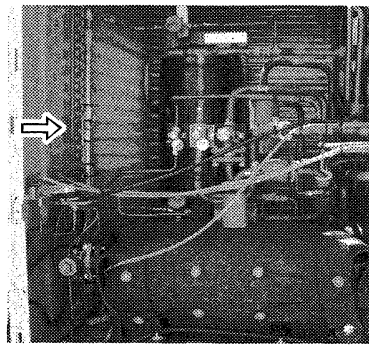


センサーで漏えい監視

フロンガス検知システム ナンバ

【新潟】ナンバ(新潟県長岡市、難波昇一社長、0258・42・2211)は、冷凍設備などで冷媒に使われるフロンガスの漏えい検知システム「フロンキーパーII写真」を開発した。冷凍機の配管に磁気センサーを組み込み、ガス量を監視。減少時に警報を発する。価格は8台の冷凍機を監視できるタイプで66万1千円……



フロンキーパー(矢印)を冷凍機の配管に組み込む

500円。初年度1億円の売り上げを目指す。冷凍設備で使われているフロンガスは、ポンプダウンと呼ばれる作業を行うと、液体の状態で冷凍機内のレシーバータンクに戻る。新システムはフロート(浮き)とセンサーを用い、ポンプダウン時の液面の高さを調べ

る。初期のガス充填時より液面が2ミリの下がると検知し、電話回線で警報を送る。またフロンガス再充填の際に初期の浮きの高さまでの充填量が、漏れ出した量として把握できる。フロンガスは業務用冷凍設備などの冷媒として

送る。またフロンガス再充填の際に初期の浮きの高さまでの充填量が、漏れ出した量として把握できる。フロンガスは業務用冷凍設備などの冷媒として

広く用いられているが、二酸化炭素の数千倍という温室効果があるため、機器から大気中に漏えいしないよう適切な管理が求められる。しかし、機器の配管接続の不良や、

経年劣化などで運転中に漏れる例も少なくない。機器の能力低下や故障の原因にもなる。

新システムはすでに新潟県内のスーパー3店舗で先行導入されており、このほか、10数店舗で導入計画がある。